

# 2006年春季のサワラの 漁況予報



## 1 2005年級群（2005年発生群）の加入状況

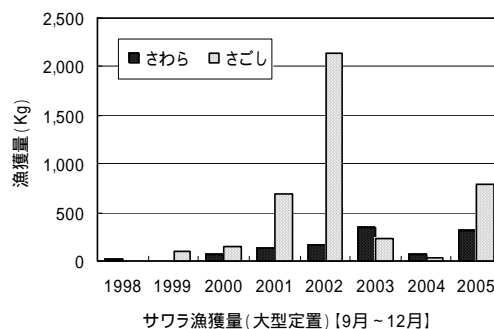
香川県では瀬戸内海系群サワラ資源回復計画に基づき、備讃瀬戸および播磨灘海域では流し網による秋漁休漁、燧灘海域では9月の1ヶ月間は流し網による秋漁休漁となっています。そこで、2005年級群（2005年春生まれ）の加入状況を次の調査結果から推定しました。

### (1) 2005年秋季の0歳魚の漁獲調査

#### 【播磨灘海域】

大型定置網での漁獲（右図）

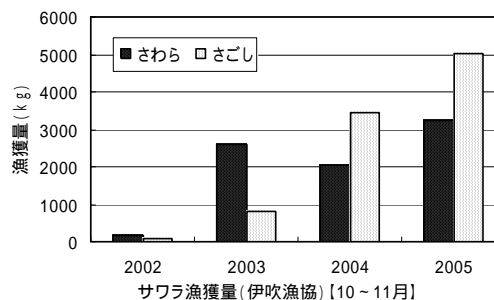
香川県播磨灘南西部海域にある大型定置網の漁獲量を調べました。2005年9月～12月のさごし（2005年級群）の漁獲量は0.8トンで、前年を上回りました。



#### 【燧灘海域】

流しさし網での漁獲（右図）

燧灘で操業する香川県観音寺市伊吹漁協の流し網による漁獲量を調べました。2005年10～11月のさごし（2005年級群）の漁獲量は5.0トンで、前年を上回りました。



### (2) 2005年秋季の流し網試験操業調査

香川県ではサワラ当歳魚の発生状況を調査するため、秋季に播磨灘において流しさし網の試験操業を行っています。2005年には10月に3回（延べ6隻）の試験操業を行い、結果は下表のとおりです。さごしが134尾漁獲されました（平均尾叉長49cm、平均体重1.0Kg）が、これは2002年に次いで多い漁獲でした（1隻当たりの漁獲尾数は2002年、2001年に次ぐ）。またこのうち8尾が標識魚（放流魚）でした。

#### 試験操業日およびサゴシ(0歳魚)の漁獲状況

1998年		1999年		2000年		2001年		2002年		2003年		2004年		2005年	
試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数
11/11	0	10/4	63	10/6	6	10/19	26	10/15	95	10/6	32	10/11	0	10/3	18
11/13	13	10/25	9	10/19	3	10/26	79	10/23	116	10/15	6	10/25	0	10/12	32
		11/17	1	11/6	1			10/30	78	10/20	5	10/31	1	10/27	84
計	13		73		10		105		289		43		1		134
<b>CPUE</b>															
(尾/隻)	3.3		12.2		1.7		26.3		48.2		7.2		0.2		22.3
(尾/反)	0.2		0.9		0.1		1.8		3.3		0.5		0.0		1.5

### (3) 2005年放流魚の追跡調査

香川県では1999年からサワラ種苗の標識放流および追跡調査を実施しており、1999年以後の放流および再捕結果は次表のとおりです。

2005年は放流後902尾の標本について、標識の有無を調べました。その結果78尾が標識魚（放流魚）で、有標識率（標識魚の数/標本の数×100）は8.6%でした。さらに9月以降の標本についてみると、787尾中60尾が標識魚で有標識率は7.6%となり、2002年以降では、2002年に次いで低い有標識率となりました。

	当歳魚の標本入手尾数および標識魚(大型放流群)尾数						
	大型種苗		放流直後からの			9月以降の	
	放流尾数	標本尾数	標識魚	有標識率	標本尾数	標識魚	有標識率
	(A)	(B)	B/A (%)	(A)	(B)	B/A (%)	
1999	5,598	215	10	4.7	120	4	3.3
2000	22,619	545	113	20.7	308	36	11.7
2001	5,468	975	20	2.1	693	11	1.6
2002	82,992	3,132	258	8.2	1,154	40	3.5
2003	83,493	522	144	27.6	442	113	25.6
2004	36,000	92	14	15.2	70	7	10.0
2005	113,419	902	78	8.6	787	60	7.6

放流尾数および標本数は瀬戸内海東部での合計である（燧灘を除く）。

1999～2003年は小型放流群も実施しているが、再捕尾数（標本尾数）は含んでいない。

2003年には放流直後（7月）に放流場所付近で大量の標識魚が再捕尾数されたため、

8月以降の標本とした。

【有標識率が低いほど自然発生量が多いことが推測される】

## まとめ

- 1) 大型定置網でのさごしの漁獲は前年よりも多く、2001年並み。
- 2) 秋季の流し網試験操業でのさごしの漁獲は前年よりも多く、C P U Eは2002年以降では2002年に次いで高い。
- 3) 放流魚の再捕結果から有標識率が2002年以降では2002年に次いで低い。

以上から判断して、2005年級群の発生量（資源量）は、卓越であった2002年級群には及ばないものの、2003年級群および2004年級群より良好であると考えられます。

【2002年級群 > 2005年級群 > 2003年級群 > 2004年級群】

## 2 2005年春漁の漁況予報

### さわら

4歳魚（2002年級群・推定6～7kg）の漁獲尾数は、昨年を上回るものの少ない。

3歳魚（2003年級群・推定5～6kg）の漁獲尾数は、昨年を下回る。

2歳魚（2004年級群・推定3～4kg）の漁獲尾数は、昨年を下回る。

### さごし

1歳魚（2005年級群・推定1.5～2kg）の漁獲尾数は、昨年を上回る。

漁獲の主体となる2歳魚および3歳魚の漁獲が昨年を下回ると予想されるため、サワラ全体の漁獲量は昨年を下回ると予想されます。

1998年以後香川県のサワラ漁獲量は2004年まで右肩上がりで増加してきましたが、昨年に引き続き2006年もやや減少すると思われます。また独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所が行った資源予測では、今後サワラ資源が持続するためには瀬戸内海全体で80万尾の加入が必要とされていますが、2004年の加入は47万尾と少なくなっています。したがって、サワラ関係漁業者の皆様には引き続き資源管理に努めてくださるようお願いいたします。

小型魚はできるだけ保護する努力をお願いします。

